

# 改訂第6版の序

本書を出版して10年が経過しました。その間、多くの薬剤師をはじめ医師や看護師の皆さんに利用していただき、この度、改訂第6版を発行することができました。本書は有用なレジメンを選び、基本的な情報と薬剤師目線からのレジメンのチェックポイントや副作用対策と服薬指導のポイントを記載していることから、とても使いやすいとお褒めの言葉をいただいているいます。また、他の書籍には見られない注射剤調製時の注意点など臨床の場ですぐに役立つ情報が載っていることも高い評価を受けている理由の一つと考えています。

がん薬物療法は、外来の化学療法室などでの点滴注射による治療や経口抗がん薬による治療が非常に多くなっており、患者の病院の滞在時間はとても短くなっています。患者は、病院の外来部門や保険薬局で医療者と関わることになります。そこで日本臨床腫瘍薬学会（JASPO）では、がん薬物治療が入院から外来へ移行することに着目し、がん薬物療法の知識や技術に優れた外来がん治療認定薬剤師を育成し、病院の外来や薬局などにおいて患者をサポートすることを目指しています。病院の医療スタッフと地域の薬局の薬剤師と連携しながらがん患者に対応することが、安全・安心ながん薬物療法を実施していくための重要なポイントと考えています。

最近は、効果の優れた医薬品の登場で副作用の少ない治療も行われるようになってきていますが、患者や領域によっては、治療効果や副作用対策が未だ不十分なこともあります。医療者の関わりが重要なことは変わっていません。患者への適切な情報提供・支持療法により質の高いがん薬物療法の実践が必要であり、本書を活用していただけるところです。

本書の改訂にあたって、新規に登場した抗がん薬やガイドラインの改訂に伴う新規レジメンの追加や変更を行いました。また、それぞれの項目についても追加や修正を行い、抗がん薬の調製時の注意点を付録としてまとめましたので、今まで以上にさらに使いやすいハンドブックになるものと思います。

本書が、病院や薬局でがん薬物療法の向上を目指している薬剤師をはじめ、医師、看護師の方々の参考として、今まで以上に重要な一冊となることを願っています。

2019年1月

日本臨床腫瘍薬学会 監事  
明治薬科大学 客員教授  
遠藤 一司